

会津身不知柿「落葉病」罹病樹の
果実の取り扱いに注意してください！

1 管内各地で「落葉病」の発生が見られます。



写真1 激しく発病した樹



写真2 結果（結実）部位



写真3 落果した果実



写真4 一部のみ発病



写真5 上部のみ発病



写真6 落葉し果実のみ残る

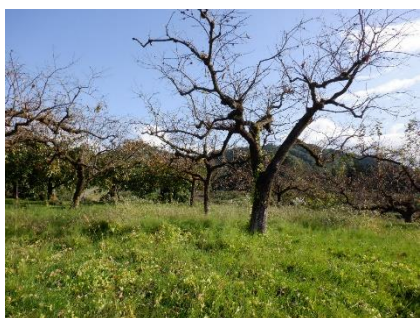


写真7 全落葉・落果した樹



写真8 葉の初期症状



写真9 葉の末期症状

2 収穫、出荷の際の注意点

会津身不知柿の収穫期が近づいていますが、「落葉病」に罹病した樹からの果実は、品質が著しく低下するので販売しないようお願いします。(理由は下の3(2)参照)

なお、JA会津よつばの出荷基準には、収穫及び出荷時の注意点で

「落葉病果実は出荷しない」とされています。

個人出荷の場合も、品質が悪く、クレームや信用喪失の原因になるので十分注意しましょう。

3 「落葉病」の生態と今年の感染タイミング

(1) 主要感染時期は、5～7月の梅雨期

その後潜伏期間を経て9月以降に発病

(2) 前年の落葉上の病斑部は雨で成熟し、孢子(子のう孢子)を飛ばします。そして葉に付着し感染します。

症状は、葉に始め小黑点ができ、これが拡大していき黒紫色に縁取られた赤褐色の円形病斑となる。葉は紅葉し早期落葉します。

それに伴い、果実も健全樹に比べ早く着色し症状が進むと落果します。落果せず残った果実も、糖度の低下、早期軟化(脱渋後も甘くなく、日持ちが悪い)と著しく品質が低下します。

(3) 降雨のグラフと防除暦の防除タイミング

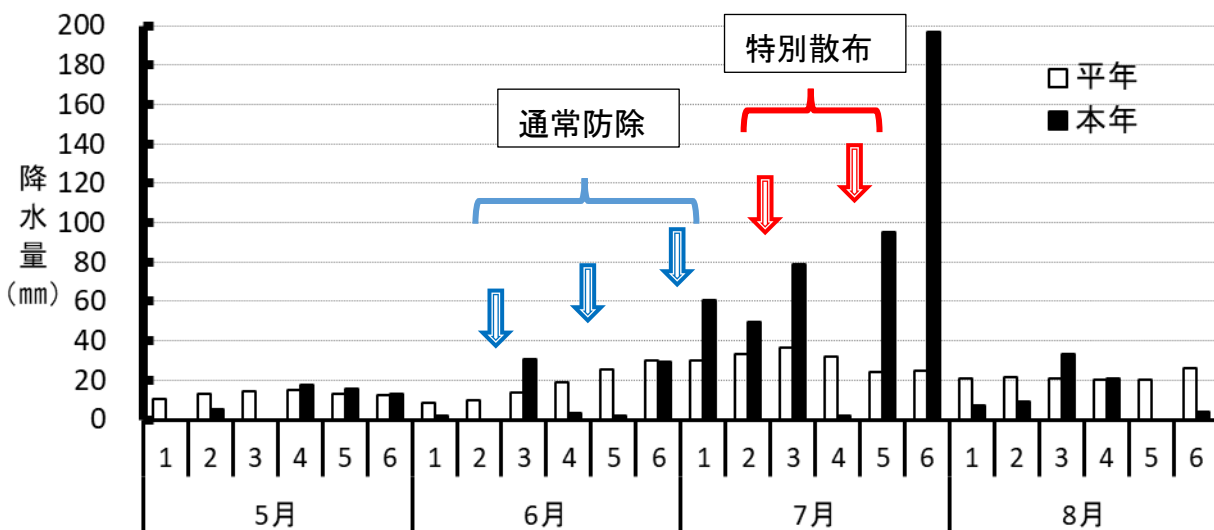


図1 令和2年度半旬別降水量と殺菌剤の散布時期(5～8月)

(矢印は防除暦による散布時期、青矢印は通常防除、赤矢印は特別散布)

反省点

- ① 本年は梅雨が長引いたため、それに対応して特別散布を実施することが必要だったと考えられます。
- ② まとまった降雨が予想されるときに、あらかじめ予防散布することが重要です。

③予防散布ができなかった場合は、雨が上がったあとに防除を行いましょう。

4 今後の対策

「落葉病は、落葉が次年度の感染源になる」

落葉の処理を徹底してください。

処理方法の例

- ・軽くロータリーをかけて、落葉を土に混ぜ込む。
- ・灯油バーナー等で園地地面の落葉を焼却する。
- ・下草が短く、落葉が風で飛ぶ場合には、園地の風下に軽く溝を掘るか、ネットを張るなどして、落葉を集め処理する。

農作業事故に気をつけましょう！！

農作業事故が発生しやすい時期です。下記の点に注意し、農作業事故を未然に防ぎましょう！！

- 作業に適した服装をする。
- 点検は安全作業の第一歩。機械の日常点検、定期点検を必ず行う。
- トラクターの安全フレームを、作業走行中に必ず立てること、そして、シートベルトを着用する。
- 走行時は路面状態や障害物、段差に注意する。
- 作業が終わったら、左右ブレーキを連結する。

農業災害が多くなっています。農業保険（農業共済・収入保険）に加入しましょう！